

“いま”を生きる×“これから”を生きぬく 力を育む保育 2年次

～ 多様性を生かし共生を実現する教育の探求 ～

滋賀大学教育学部附属幼稚園は同じ附属小学校・中学校と共に、「いまを生きる」という教育理念を掲げています。今後さらに不確実性が高く、将来の予測が困難な時代に向かっていく中で、私たちは幼稚園という学校教育の始まりにあって幼児期に何を育み、そして支える必要があるのでしょうか。遊びや生活といった環境から学ぶ「いま」を大切にしながら、「これから」の持続可能な社会の担い手を育む保育を実践しながら研究を行っています。

▶昨年度、1年次の研究成果

○持続可能な社会につながる力の育成

SDGs 17 の目標を幼稚園の生活や活動に重ねて考えていく手がかりとして、保育事例から幼児の生活に添った目標を抽出し、カテゴライズし直した幼稚園版アイコンを作成しました。このことにより、SDGs と保育実践の関係を可視化し、未来を見据えることで今の保育の充実を図りました。



○幼児期にふさわしい豊かな生活

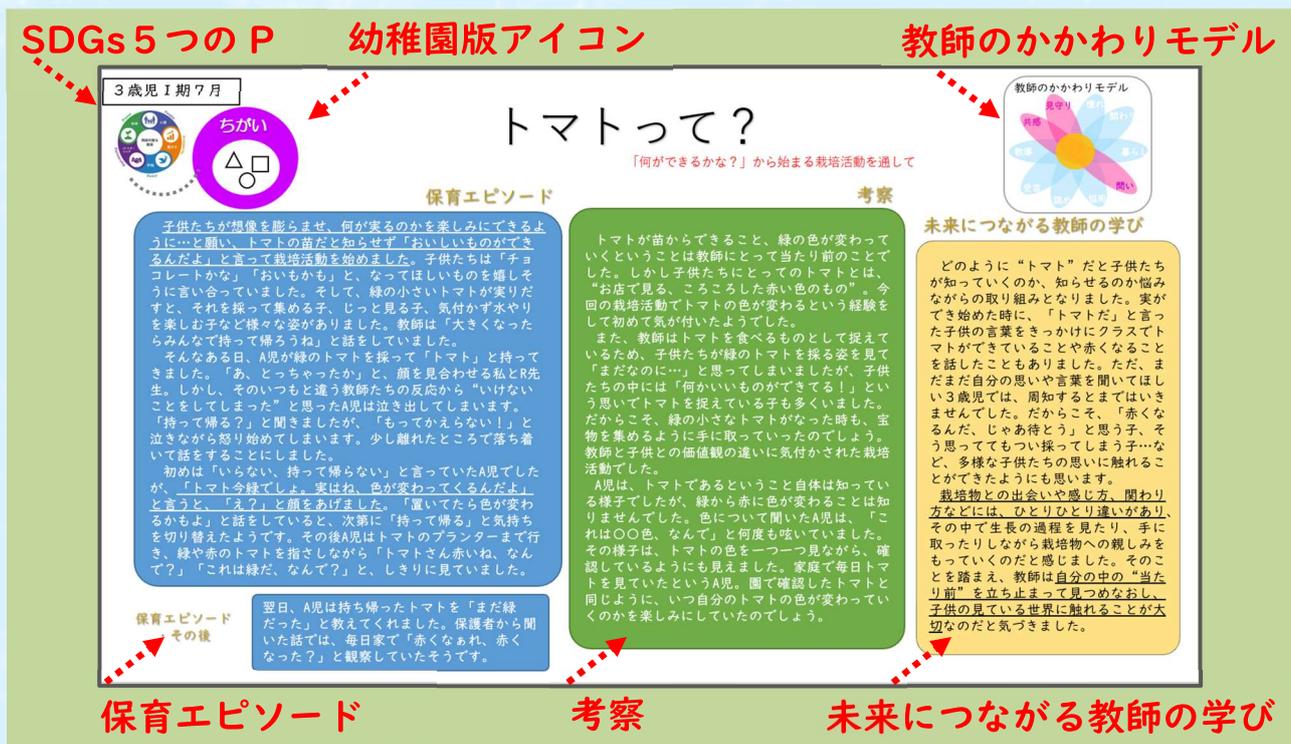
不織布プランターなど今の“暮らし”に直接的な SDGs につながる活動を取り入れ、日常の生活を見つめなおしました。「多様性」と「共生」を意識した視点で幼児の姿を捉え、持続可能な社会の担い手として幼児が将来的に様々な問題を自分事として捉え行動していけるために、何を育てる必要があるのか保育全体から考えなおしました。

研究を進める中で日々の“暮らし”の中では教師の意識の向け方や振る舞いが幼児の生活に大きく影響し、直接的、間接的な援助のあり方を見つめていく必要性が生まれてきました。そこで研究2年目は、副題を～多様性を生かし共生を実現する教育の探求～と設定し進めることにしました。

▶今年度、研究2年次の取り組み

- 幼稚園版アイコンを用いた事例カードを作成し、持続可能な社会の担い手となる幼児理解を深めると共に、関わり援助する教師の学びや実践知を言語化、図式化をはかりました。
- 研究2年次として教師の働きかけの側面から幼稚園版アイコンの検証を行いつつ、広く地域社会に開かれた教育課程への反映を目指しました。

▶今年度、研究2年次事例カードの見方



左上のSDGs 5つのP、また幼稚園版アイコンは、エピソードをどの視点で考察しているのかを示しています。左から保育エピソード、考察、未来につながる教師の学びの順に囲いで記述し、この事例における特出すべき教師の働きかけの箇所をアンダーラインで記しています。右上の花をモチーフにした教師のかかわりモデルは、該当する花びらを着色することで、教師の働きかけが一目でわかるようにしました。

▶今年度の研究成果

○多様性と共生の捉えの再確認と共有

持続可能な社会の創り手を育む保育の在り方を探るなかで、昨年度私たちは「多様性」と「共生」というキーワードを見つけ出しました。今年度研究を進めていくなかで、教師個々に抱く「多様性」と「共生」について少なからず差異があり、改めて以下のように再定義しました。

【互いのもっているものを受けとめ合い（多様性を生かし）、互いに関わりあって共に主体となって生きる】

私たちが幼児を見取り、捉える中での「多様性」は、性や人種といった目に見えるものだけではなく、価値観や経験、受けてきた教育、また考え方など、その人の内面におけるもの、その成長過程や家庭の様子など、背景までも意識しながら捉えているものだ確認、共有しました。

○教師の働きかけモデルの作成（※次ページ参照）

実践知ともいえる教師の働きかけを幼児の姿を通して言語化する取組を行いました。幼稚園版アイコン同様、1つのエピソードに対し教師の働きかけを特徴的なものに絞って考察を重ねたことを、花をモデルに図式化しました。次ページに示す働きかけは単独で行うものではなく、花びらのように他の働きかけとも折り重なりながら、中心にある一人一人の多様性を受けとめ、幼児と共に主体となって生きる生活を豊かにしていくものだと考えています。

○開かれた教育課程への反映（※次ページ参照）

教師の働きかけという具体的な姿を教育課程に反映する手段として、指導計画内に「幼児の学ぶ内容」に加え、事例カードを読み取ることができるQRコードを作成しました。このことにより幼児同様、共に主体となり関わる教師の姿が具体的な姿として示されました。来年度、保育公開や教育実習等にも活用を検討し、本園の使命である地域における幼児教育の質の向上と共に、教員養成および教員の資質向上を目指します。

▶教師の働きかけモデル



【見守り】 その子らしさを尊重し、子供が何を感じているのか、何を考えているのか、その言動の経過を静観しながら心推し量ろうとするなどの働きかけ

【共感】 その子と同じように感じることで思いを理解しようしたり、言動に沿って優しく温かい気持ちで声をかけたり、行動したりするなどの働きかけ

【教 導】 子供の遊びや生活の中から生まれる興味・関心、遊びの目的や方法などに対し、子供の主体を保证しながら、教師の思いや考えを生かし一歩先を見据えた言葉をかけるなどの働きかけ

【受 容】 その子のありのままの心情や言動を受け入れる言葉をかけたり、態度や行動で示したりするなどの働きかけ

【認める】 子供の姿をあるがままに受け入れて、その子の言動を受け止め、その子が期待する言葉をかけたり態度や行動を示したりするなどの働きかけ

【協 同】 子供と横並びの関係で子供の世界を楽しみ、遊びや生活の仲間として目的を共有し、心を合わせて行動しようとするなどの働きかけ

【問いかけ】 遊びや生活の中で子供が興味関心をもったことや表現したことに対し、より想像を広げたり、思考や探究を深めたりすることにつながる言葉をかけるなどの働きかけ

【関わり・交流】 異なる年齢、発達、生活をしている人などとの関わりや交流などを通して自分たちの周りにある多様さに気づき、他者や社会への興味関心につなげるなどの働きかけ

【憧れ・モデル】 教師自身が遊びや生活を楽しみ、知識や技量を生かすことによって、子供の意欲や、見方、捉え方、考え方の変容につなげるなどの働きかけ

【暮らしとの出会い】 季節の移り変わりや、文化、伝統の豊かさに気づき、興味関心をもったことを遊びや生活に取り入れたりすることにつながるなどの働きかけ

▶教育課程・指導計画への反映

年間指導計画 4歳児 1期(4～5月)		保育資料	
<p>4歳児 1期(4～5月) 新しい先生や友達に親しみをもち安心感をもって過ごす時期</p> <p>・進級、入園したことにうれしさを感じつつ不安や緊張のために保護者から離れにくい状態もいる。 ・教師に「見て」「先生」と呼びかけ一緒に過ごすことなど教師を頼りに遊び出す。 ・したことがある遊びしながら周囲の様子や友達のしているのを見たり、すぐには遊び始めず様子を見て遊び出したりする。 ・進級前は、半年同じクラスだった友達と一緒にいることで安心している子どももいるが、環境の変化に戸惑いを感じている子どももいる。 ・新入園児は教師の誘いを頼り出して遊び出したり、目についたもの、初めてのものに興味を持って遊び出したりする。 ・友達と同じ場で遊ぶが一人一人がいろいろな楽しみ方をしている。 ・園庭の様子が変わるとおぼろげや草花鑑賞などを楽しんでいる。</p>	<p>歌</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園歌 ・チャールリップ ・さんぽ ・こいのぼり ・ともだちでできた ・ポンポンとはるがきた ・おつかいありさん ・めだかのぼりこ ・せつげんさん 	<p>絵本</p> <ul style="list-style-type: none"> ・だんごおしのこらちゃん ・ぞうさんのさんぽ ・どうんどこんこん ・そろまめくんシリーズ ・もりくんのいちごちゃん ・きらいのぼろぼろちゃん ・くりちゃんとおまのまのトマト 	<p>造形・描画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パス(造形遊び、模様を描く) ・のり(線のみ) ・はさみ(一回切り) ・輪の具(はじき輪、筆を使って) ・折り紙(3回折り)
<p>ねらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ○好きな遊びややりたいことを見つけ、安心して過ごす ○先生に自分の思いを伝えたり、友達の様子に関心をもて見たり、関わったりする ○気に入ったことを自分なりに繰り返す楽しむ 	<p>内容 (健康 人間関係 音楽 運動 表現) ☆環境構成 ○援助</p> <p>幼児の学ぶ内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の持ち物の置き場所や身の回りの用意、生活の流れを知り、自分でしようとする ・新しいクラスに慣れ、先生や友達と過ごすことの喜びを味わう ・遊びの中で道具の使い方を知り、自分なりにやってみようとする ・砂遊び、色水遊びなどで感覚や色を存分に感じながら遊ぶ ・身近な用具(のり、はさみ、セロハンテープなど)を使い楽しみながら慣れる ・草花や草花を見たり摘んだり、遊びに使ったりする ・園庭の生き物に興味をもち、探したり、触まったりする ・避難訓練では先生の指示に従って、安全に気をつけて行動しようとする 	<p>環境構成・援助</p> <ul style="list-style-type: none"> ☆表示や配置を工夫し、物の置き場所、身の回りの用意の仕方、目付け表示が分かりやすくする ○園庭に応じて生活の仕方(トイレの使い方、手洗いやおむつ替えの仕方)を知らせ、状況や内容に合わせてクラス全体でも確認する ○友だちと楽しむ喜び、安心して過ごすよう居るの準備や呼びかけなど一人一人と丁寧に関わる ○思いやまじかたや相手と遊ぶことが出来るように表現や顔が笑った姿に見取って関わる ○幼児が共有して遊ぶ場として、それぞれがペースで関わることが出来るように配慮しながら一緒に遊ぶ。(仲間や友だち) ○危険箇所や遊びの危険を考慮した遊具や環境を整える ○安全に遊ぶための意識をもてるように、一人一人の生活経験や遊び方に応じて声をかけたり、一緒に遊びながら示したりする ○安心して遊び始めるように親しむある用具を出しておいたり、静の状態を確認したりする ○言葉や声を入れる言葉など幼児が聞いてほしい大きさや数を工夫し、手を取りやうに準備しておく ○幼児が自分に遊べるように時間や生活の流れを工夫する ○幼児が遊びに興味をもてるように、教師自身が遊んで遊ぶ ○園庭や遊具で興味を感じて遊べるように教師も一緒に遊ぶ ○園庭や遊具など遊びの場を工夫して見せる幼児は居ることが出来るように配慮しながら関わり、関心に応じて関わりを見守りたりする 	
<p>期の生活を表した言葉</p> <p>ドキドキわくわく</p> <p>自己充実</p> <p>年中組</p> <p>他者との関わり</p> <p>先生、一緒に遊ぼうよ</p> <p>生活のひろがり</p> <p>みんなですのひろがり楽しいな</p>	<p>内容につながる事例カードタイトル</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生のおでかと一緒に遊びながら園庭の生き物に興味をもち、探したり、触まったりする ・自分の気持ちについて見つけたこと ・自分なりの遊び方を工夫して楽しむ ・先生や友達と一緒に遊ぶことを楽しむ ・先生や友達と一緒に絵本を見たり、歌を歌ったり、絵をかいたりする楽しさを感じる ・クラスの友達と一緒に遊ぶことを楽しむ ・園外で草花の心地よさを感じて遊ぶ ・種まきや草花の観察など、生長を楽しみに世話をする 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達がいる関係やしていることが感じられるような環境の配置を工夫する ○幼児が安心して遊べるようにおでかや遊具を整え、幼児の発見を受け止めたり、楽しい雰囲気を作ったりする ○クラスみんなで遊ぶことを楽しく感じられるように手遊びや絵本の読み聞かせなど取り入れる ○名前を呼ぶ声かけなど、クラスの友達のことを意識できるものを取り入れる ○幼児と一緒に遊ぶ中で自分の興味を感じて遊ぶ ○幼児が自然と関わり、楽しんでいくように一緒に高知能の準備をする 	
<p>「いま」を生きる</p> <p>「これから」を生きていく力を育て保育実践事例カード</p>	<p>※1 ※2 ※3</p>	<p>幼児期の終わりにまで書いてほしい10の姿</p> <ul style="list-style-type: none"> 健康 自己心 協同性 道徳性 社会生活 思考力 自然 数値・図形 言葉 表現 	

QRコードを読み取ることで事例カードから
幼児理解と、共に主体としての教師を知る・学ぶ